

# 『アフリカから考える 環境・平和』

ケニア共和国出身の環境保護活動家でありノーベル平和賞受賞者のワンガリ・マータイさんが、4月26日に金城学院中学校と高等学校で講演してくださいました。「モットイナイ」を世界に広めているマータイさんが、環境や平和について、そして今私たちに何ができるのかを分かりやすく語ってくださり、大変有意義な時間となりました。

※この講演の全文は中学校・高等学校のホームページ <http://www.hs.kinjo-u.ac.jp> に中学は日本語、高校は英語で掲載されています。



る、資源を受け取る権利が与えられていない、と感じます。そして、彼らが主張や意見を持って、自分たちの意見はどうせ聞き入れられないだろうと諦めて、発言することを止めてしまう。そうすると別の手段を使って自分の正当性や権利を証明しようとします。平和的な手段を用いる人もいますが、中には暴力的な手段を選ぶ人もいます。そういった人々から戦争が始まるのです。

アフリカ各国でも鉱物、原油などの自然資源の奪い合いが紛争を引き起こし、人々とともに環境を破滅へと追い込んでいます。資源がこの先も持続し、人々に平等に分配される世界にしていかなければ、争いが絶えることはないのです。

環境を守ることは平和を守ることだと気づいた私は、環境を守り、育むことの大切さを説きながら啓発運動を行ってきました。民主主義とは、限りある資源をきちんと管理し、人々に平等に分け与えるシステムなのです。さらに、世界の多様性を認知して、人権尊重を

## KENYA

### 木は平和の象徴である

今、地球はたいへんなことになっています。環境破壊が進み、それに伴ない地球温暖化が進行し、私たちの生活に少しずつ、しかし確実に深刻な影響を与えています。私が今回皆さんに伝えたいメッセージの一つに“資源を守り、責任を持ち、きちんと管理する”ことがあります。将来を担う若い世代の方々には特に、資源について理解を深めてもらいたいです。

1977年、私は農村の貧しい女性たちに呼びかけ、植林を始めました。現在でもこの運動は続けられており、これまでに植えられた約3,000万本の木が人間・動物の住環境改善に、

そして地球温暖化防止に貢献しています。

環境保護活動家として知られていた私が、アフリカ人女性で初のノーベル平和賞を受賞したのは2004年のこと。そのとき多くの方が「植林と平和にどんな関係があるの？」と疑問に思いました。

私にとって、環境破壊と戦争は密接に結びついているものなのです。私たちが住む美しい地球は、限りある資源によって支えられています。もしその資源が人々に平等に分け与えられなければ、その人々は疎外されてい



生徒から英語で質問



記念品贈呈

重んじる政治制度でもあるのです。私は、環境を守るためには政治を見直さなければならないと考え、2002年にケニアの国会議員選挙に立候補し当選、翌年には環境副大臣に任命されました。

KENYA

世界平和と“モッタイナイ”



現在私は環境保全と平和への認識を高めるために世界中を飛び回っています。その一環で2005年に初来日した際耳にした、“モッタイナイ”という言葉とその考え方にとても共感しました。私たちが必要とする資源を尊重し、大切にしよう、無駄にしてはいけない、今ある資源に感謝しよう、という意味を持つこの言葉を世界中の人々が理解すれば、必ず争いが減り、平和につながると信じています。

“モッタイナイ”という言葉を自国に持ち帰り、グリーンベルト運動に携わる人々に説明したところ、すぐに賛同を集めモッタイナイ運動が始まりました。私が最初に目を留めたのは、“モッタイナイ”を知る以前から気になっていた、薄いプラスチック製の買い物袋でした。

多くのケニアの人は、使ったあとすぐに袋を捨てていたので、深刻なゴミ問題になっていたのです。

モッタイナイ運動の軸となっている3R、リデュース（ごみ減量）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化）は、プラスチック袋の問題解決

にも活かされました。私は、袋が厚くなれば何度も使えるうえ、リサイクルもしやすくなると考え、製造会社に袋を厚くするように頼んだのです。その結果、袋の製造に必要な資源の消費量が減り、環境保全に役立ちました。

モッタイナイ運動の特徴はその親しみやすさだと思います。中学生でもできる簡単な例をいくつか紹介しましょう。一つは紙を無駄にしないこと。私はオフィスでは、片面しか印刷されていない書類は受け取らないのです。「モッタイナイ！裏面も資料を印刷して提出し直してください」といって突き返します。一枚の紙を作るのに、どれほどの量の木が必要なのか理解



してほしいのです。さらに、買い物袋の使い捨てもモッタイナイ。買い物に行くときは、袋を持参しましょう。来日したとき、小池百合子さん（現内閣総理大臣補佐官）にいただいた風呂敷を私はとても気に入っています。風呂敷は包装紙やプラスチック袋と違い何度もリユースできる万能品です。しかも、小池さんがくれたのはプラスチックのリサイクルで製造されたものだったのです。



自分に出来ることから“モッタイナイ”を行動に移しましょう。私は、ほんの小さなことでもいつか大きな実を結ぶと信じています。今ある紙、木、水、原油、鉱物、生き物を大切に守っていかねば人間は生きていくことができません。それなのに、減少しつつある資源をめぐって人々は対立し合うのです。

グリーンベルト運動は初めから人々に受け入れられたわけではありません。私は、絶対に諦めないという固い意志と、人々のためになんとかしなければならぬという強い信念を持って、運動を続けることができたのです。

プロフィール

Wangari Maathai. 1940年4月1日ケニア共和国生まれ。米ピッツバーグ大学で修士号を、ナイロビ大学で博士号を取得。1977年に非政府組織「グリーンベルト運動（GBM）」を創設し、持続可能な開発の推進に取り組む。1981～87年ケニア全国女性評議会議長を務め、2002年にケニアの国会議員となり、翌年に環境副大臣に任命される。2004年にノーベル平和賞受賞。2005年環境副大臣に再任。2006年トリノ五輪の開会式で旗手を務める。著書に「モッタイナイで地球は緑になる」（福岡伸一訳／木楽舎）、「へこたれない」（小池百合子訳／小学館）。

# 『世界平和は女性の力で』

質疑応答形式で進められた高校の部では、東アフリカ地区の女性で初めて博士号を取得し、アフリカ人女性で初めてノーベル平和賞を受賞したマータイさんに、5人の生徒が英語で質問しました。

## KENYA

## 女性の手で始めた植林活動



- グリーンベルト運動は環境保護に貢献していると同時に、平和と密接に繋がっています。マータイさんが、グリーンベルト運動が平和を生み出していると感じるのは、どんなときですか？（2年 鏡味）
- たくさんの女性がグリーンベルト運動に参加してきました。その人たちは最初、マータイさんの思いを理解していましたか？（3年 黒柳）

現在では男性や子どもたちも参加しているグリーンベルト運動ですが、元々は私が農村部に住む女性たちに声をかけたのがきっかけでした。私は、ケニアでの女性の立場、特に農村部での厳しい生活状況を理解していました。彼女た

ちには食料、飲料水、燃料になる薪や収入が不足していて、その状況は深刻化していたのです。なんとかしなければと思った私は、一緒に木を植えることを提案しました。

「木を植えることは自分たちの環境、状況を良くすること」と、と呼びかけたのですが、初めはその理念が理解されませんでした。そこで、私は教育プログラムを設けて、国民の権利・環境についての教育を行い、なぜ環境を大切にしなければならないのかを教えました。

さらに、ある問題と、一見無関係に見える別の問題を繋げて考えることも教えました。環境問題が他のさまざまな問題と関わりがあることを知ってもらい、環境を良くしなければ自分たちの生活を良くすることができないと理解して



もらいました。

私にとって植林とはただ木を植えることではなく、平和維持、生活状況の改善にも関係しているのです。

## KENYA

## 女性が活躍できる社会へ



- マータイさんが運動を始める前、ケニアの男性たちは女性の自立に対して否定的でした。長年の間に状況はどのように変わりましたか？（3年 黒柳）
- 日本ではたくさんの女性が仕事を持っていますが、同時に少子化問題を抱えています。ケニアでは今後、女性の自立によって問題が起きると思いますか？（3年 鈴木）
- 女性が社会に出て働く意義は何だと思いますか？男性と女性がともに働くことを、どう思いますか、本当の平等は実現すると思いますか？（2年 福永）

女性は世界中どこでも、いつでも働いています。仕事というと、オフィスでの仕事に限定されがちですが、やらなければならないことがある場所は全て職場なのです。





「総合的学習の時間」での事前学習



質問した生徒たちと生徒会会長

収入を得られるものだけが仕事ではありません。

理想の社会とは、男性と女性が隣り合いながら共同で働くことができる社会です。キャリアを伸ばしながら育児を行うのは容易ではありませんが、男性そして社会全体のサポートがあれば両立は可能です。

男性と対等でありたいと女性たちは言いますが、そうではない。求めているものは男性と同等の機会なのです。機会が均等に与えられれば、女性でも自分の力、能力、可能性を試せる社会になります。

現在では、比較的男女の機会均等が実現されてきました。それは、女性が教育を受けられるようになったからなのです。私が幼かった頃、



女の子は学校に行くことができなかったのですが、私はたまたまチャンスを与えられて行くことができました。もし教育を受けられなかったら、今日の私はありません。男女間の教育格差の減少により、女性でも社会的影響力のある職業に就けるようになったのです。



## KENYA “UNBOWED” 「へこたれない」



- マータイさんが今までで一番“モットアイナイ”と思った経験は何ですか？（3年 鈴木）
- 自分の意志を信じ、貫いたことによって、グリーンベルト運動の成功など大きな成果が出たと思います。しかし、今の日本人は、自分の意志をすぐに曲げてしまう傾向がある気がします。マータイさんは、どうして自分の意志を貫くことができるのですか？（3年 森、2年 鏡味）
- これからの私の人生、たくさんの困難が待ち構えていて、くじけそうなこともあると思います。また、私たち生徒は、今後の世界を担っていくこととなります。私たち生徒に持ち続けてほしい気持ち、思い、志は何ですか？（3年 森）

社会という大きくて漠然としたものを変えよう、変えられるはずだという意志を貫き行動することは並大抵のことではありません。自分の考えが正しいかどうか確信を持ってないときもあるでしょう。それでも私は「女性の教育や仕事の機会が少ないのは間違っている」、

「環境の悪化が戦争に結びついているのだ」、という考えに自信を持ち、行動してきたのです。自分の考えが受け入れられなくても、粘り強く伝えようとすれば、必ず人々に理解されると信じています。

## ハチドリのひとつずつ いま、私にできること

森が燃えていました  
森の生きものたちは  
われ先にと逃げていきました  
でもクリキンディという名の  
ハチドリだけは いったりきたり  
くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んで  
火の上に落としていきます  
動物たちがそれを見て  
「そんなことをして いったい何になるんだ」  
と 笑います  
クリキンディはこう答えました

「私は、私にできることをしているだけ」

辻 信一監修／光文社

各部の最後に、マータイさんの大好きなストーリーとしてハチドリのお話が紹介されました。「私もハチドリのようなのです。誰になんといわれようと、どんな小さなことでもいいから、私は私ができることをやり続けたのです」。マータイさんは続けます。「大きな問題は政府に任せて、小さなことから環境問題を改善してゆきましょう。私は皆さんに、ハチドリのようになって欲しいと思っています。クラスの中で、地域の中で自分のやれることをやりましょう。そうすれば、いつか変化をもたらすことができるのです」。